

令和6年度 白馬村観光振興のための財源検討委員会  
第1回 登山協力金検討部会 議事録

日時	令和6年6月17日(月) 14:30~15:30
会場	白馬村役場 203・204 会議室

■ 委員

委員	白馬山案内人組合 組合長	松澤 幸靖	出席
	株式会社 白馬館 取締役 営業部長	松沢 英志郎	欠席
	株式会社 からまつ	下川 利郎	出席
	白馬村振興公社 事務局長	吉川 健一郎	出席
	白馬村索道事業者協議会	松沢 修	出席
	白馬村観光局	吉沢 紘一	出席
	環境省 中部山岳国立公園管理事務所	仁田 晃司	出席
	中信森林管理署 白馬森林事務所	岡本 守	出席
事務局	白馬村役場 観光課長	鈴木 広章	出席
	白馬村役場 観光商工係長	矢口 浩樹	出席
	白馬村役場 観光課 主事	大和田 悠太	出席

1. 開会

開会宣言及び諮問事項の再確認

2. 部会長・副部会長の選出

(1) 会長及び副会長の選任

〈鈴木観光課長〉

立候補が無いようであれば、事務局から腹案を発表したい。

〈大和田主事〉

部会長は、検討委員会の委員を務めており、村外でも山小屋を経営、他の山域で行っている事業にも詳しいことから松沢英志郎委員に、副部会長は白馬村振興公社の事務局長であり、白馬山案内人組合に所属している吉川健一郎委員にお願いしたいがいかがか。

異議なく承認

副部長あいさつ

〈吉川 副部長〉

皆様のご意見を伺いながら検討、研究を進めていきたい。

白馬は山と共存しながら生活している。

皆さんの貴重な意見が白馬村の後世に残るような協議をしていきたい。

(2) 今後のスケジュールと検討方針

〈大和田主事〉

今後の進め方と検討事項について説明。

第2回の検討部会は9月に開催予定。協議事項は対象者及び徴収範囲の提案及び協力金の額及び徴収場所の提案。第3回目は11月開催予定。9月の協議事項の確定、財源検討委員会への報告書(案)の検討、最終的な今後の流れを協議していきたい。

諮問事項は対象者の範囲、補足に関する事、協力金の範囲と徴収方法に関する事、その他制度実施に向けた課題と対応に関する事。

参考資料の説明。

北アルプストレイルプログラムについて、これは南部地域で行われている協力金。

一口500円で、税額控除に関する事は未対応。現地支払いに関する事、銀行振込に関する事が案内チラシに記載されている。

〈環境省 仁田委員〉

北アルプストレイルプログラムについて補足説明。

3年前に南部地域で始まり、西側の飛騨側に拡張した。

今年は富山県エリアでも5軒の山小屋に徴収箱を置いた。北部エリアは未着手。

本日に至るまでに2市2村(大町市・糸魚川市・小谷村・白馬村)で、状況や課題、現在の取り組みを確認した。登山道整備の拠出額は2市2村と環境省で年間約1,500万円程度だと明らかになった。北アルプストレイルプログラムは登山道を存続していくための一つの方法として取り組んでいる。

### 3.意見交換

〈(株)からまつ 下川委員〉

徴収金は任意なのか。強制なのか。

〈環境省 仁田委員〉

任意協力。山小屋の募金箱に1口500円から入れることができる。もしくは2次元コードや銀行振込。手数料がかかるので現実的には現地で決済している。

〈(株)からまつ 下川委員〉

一口500円からというのはどこかに明示するのか。

〈環境省 仁田委員〉

明示している。何十万といれる登山者もいる。

〈(株)からまつ 下川委員〉

日帰り登山客が多く、小屋によらない人もいると考える。日帰り客への徴収方法はどうか。

〈環境省 仁田委員〉

今後の議論していきたい。登山道はすべての登山客に共通してくるので協力してもらいたい。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

県をまたいだ場合の費用間の振り分けはどうか。

〈環境省 仁田委員〉

基本的には総額の振り分けはなく、募金されたエリアごとに使ってもらっている。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

2次元コードで募金した人はどこの小屋で募金したのか把握できるのか。

〈環境省 仁田氏〉

2次元コードはそれぞれのエリアごとに異なり、口座の紐付けも違うので把握できる。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

徴収場所はどのような場所になるのか。徴収範囲とは何を示しているのか。

〈事務局 鈴木課長〉

山の入り口なのか山小屋なのか、リフト乗り場もなり得るのではないかと考えている。

徴収範囲は宿泊者限定なのか、日帰り客も含めるのか、年齢などのことも含めて今後検討してもらいたい。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

検討を進めるにあたり、南部エリアの評価などデータで出ているのか。

〈環境省 仁田委員〉

北アルプス登山道維持連絡協議会のホームページに全て掲載している。当初短期間であったが500万円ほど集まり、次の年はグリーンシーズンをとおして同じくらいの額が集まった。この協議会は、松本市及び安曇野市からの500万円と山小屋からの拠出金で登山道維持のために事業計画をたてているが、コロナの影響で山小屋からの拠出金が出せない状況になったことから協力金を導入することになった。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

2次元コード支払いにおいて、男女別割合や年齢などのデータはわかるのか。

〈環境省 仁田委員〉

そこまでデータ抽出はできない。別でアンケートを行うしかない。

〈(株)からまつ 下川委員〉

上高地に来ただけの人も対象者なのか。

〈環境省 仁田委員〉

上高地の入り口にポスターを掲示している。それをみて登山をしなくても募金に協力したいという意見はあった。

南部地域でできた理由は、すべての山小屋が登山道と密接な関係があったため。そしてそれを維持するための協議会ができている。(事務局は林野庁)

それ以外の地域は山小屋の登山道に対する認識の濃淡や山小屋の距離感が空いてしまっている関係で負担が大きい。現場で動ける人もいない。

枠があって、財布があって、現場で動ける人この3つが揃わないとできない。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

範囲を検討するにあたり他市町村にまたぐことになった場合の協力金の徴収については他市町村の意見も必要だと思うが、それについては一旦保留という認識でいいのか。

〈事務局 鈴木課長〉

その認識でお願いしたい。ただ、5月に2市2村で集まり、北部山域連絡会として北アルプストレイルプログラムの導入について話し合いが始まった。村の協議会と同時並行で進めていくので、どちらの意見も踏まえて検討してもらいたい。

検討結果報告については、決定事項を報告するが、必ず決めなければならないわけではない。諮問はされたのは“協力金”。あくまでも任意となるので、共通認識として持ってもらいたい。

〈白馬山案内人組合 松澤委員〉

基本的な話の方向性は北アルプストレイルプログラムを白馬村で進めていこうという考えなのか。

〈事務局 鈴木課長〉

まだ固まっていない。

〈白馬山案内人組合 松澤委員〉

村の考え方としては協力金をもらうことで、新たな枠組みで登山道整備を行なっていく考えがあるということか。

〈事務局 鈴木課長〉

その通りである。

〈(株)からまつ 下川委員〉

任意の募金箱設置についてはやるが、山小屋によらない人もいる。そういうのはどうなのか。場所を検討しないといけないのではないか。山小屋でのPRは問題ない。

〈事務局 矢口係長〉

その辺りも協議してもらいたいこと。日帰り客も徴収する方向であれば、索道事業者に協力してもらう方法もあると考える。

〈(株)からまつ 下川委員〉

日帰りのお客さんに対して案内できない。

〈事務局 鈴木課長〉

山小屋で取ると決まったわけではないので、今後の協議で決めてもらいたい。

〈吉川 副部長〉

参考資料にはロープウェイ乗り場にも募金箱を設置しているようだがいかなものか。

〈環境省 仁田委員〉

乗り場以外にもモンベルショップなど登山準備の段階での意識づけをしている。

岳人（山岳雑誌）にも北アルプストレイルプログラムに関する記事を掲載した。

電子媒体も通じて周知している。こういった取り組みが宿泊者以外の人に対しての呼びかけとなる。

〈吉川 副部長〉

登山の入口で登山相談をしていると思うが、上高地でそのような場所でやっているのか。

〈環境省 仁田委員〉

そういう場所では行っていない。あくまでも山小屋と WEB のみ。

飛騨側が稼働したのでロープウェイへの設置、登山関連のお店にもおいた。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

参考資料のチラシには協議会名が記載されているが、白馬村で決まった場合は村の名前が入るのか。

〈事務局 鈴木課長〉

その通りである。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

登山関連のお店で、登山には行かないが村の登山道に協力したいという人もいると思われる。登山者以外からも協力を得るツールとして、チラシに村の名前が入った方が強力になると思う。

〈事務局 矢口係長〉

北アルプストレイルプログラムの内訳だと、山小屋で 200 万（現金）、銀行振込やクレジット 320 万円程度なので、やっていかなければいけないと思う。

〈事務局 鈴木課長〉

委員会でもあったが、ふるさと納税でも求めていくという方法もあった。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

登山道整備の財源はどのくらい出ている、協力金が入ることによってどのくらい寄与できるのかわかった方がいい。

〈事務局 大和田主事〉

概ね 730 万円程度。詳細は、白馬大雪渓ルート（山案内人組合委託）150 万円、白馬鍾温泉ルート（白馬館委託）70 万円。天狗山荘からの登山道は、グリーンパトロールとして山案内人組合に 200 万円。八方尾根は、八方尾根安全協議会に 200 万円。八方の自然研究路は八方区に 4 万円、遠見尾根は五竜観光協会に 4 万円ほど支出している。

最近だと白馬尻のトイレを白馬館と振興公社に 100 万円を支出し維持管理を委託している。加えて村営の山小屋の修繕等も関係する。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

グリーンパトロールのエリアはどこか。

〈事務局 大和田主事〉

天狗山荘から白馬大池までがグリーンパトロールの範囲。

〈白馬山案内人組合 松澤委員〉

グリーンパトロールはゴミ拾いやロープ張りをしているが、今まで振興公社で行なっていたものを、3 年ほど前から山案内人組合で行なっている。登山道整備とはニュアンスが違うかもしれない。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委員〉

事業者が負担している現状はあるのか。

〈事務局 鈴木課長〉

各事業者に協力してもらっているところもかなりあると思う。

〈白馬村索道事業者協議会 松沢委任〉

委託費以外で事業者が負担して修繕しているところはあるのか。

〈事務局 矢口係長〉

場所によって国交省直轄の部分がある。村は金額など把握できていない。

〈(株)からまつ 下川委員〉

お金ではなく人件費。見えない部分でやってもらっているところがある。

〈事務局 矢口係長〉

このことについて、村では集計できていない。

〈白馬山案内人組合 松澤委員〉

白馬の自然環境や現状をもっとPRして協力を仰ぐことが必要だと考える。具体性を伝えることも大切だと思う。

〈事務局 矢口係長〉

白馬山案内人組合に質問したい。例えば大町市・小谷村・白馬村の広域で整備をすようになった時に、白馬山案内人組合としては、他市村の整備ができるキャパはあるのか、人材の面で持続可能なのか。

〈白馬山案内人組合 松澤委員〉

どの業界も人材不足。正直足りていない。担い手を作る努力もしていて、白馬の案内人組合は若手も入ってきている。すでに山小屋の関係で大町市のエリアだが手を入れているところもある。伝統的な面で行っていかねばいけないところもある。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

北アルプストレイルプログラムは出来上がってきている仕組みだと思う。クレジット決済なども行くと、クレジット会社への手数料なども発生する。どこで負担しているのか。会社との契約はどうなっているのか。

〈環境省 仁田委員〉

募金された中で負担している。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

南部地区の連絡協議会は途中から新規で入ることはできるのか。当初からの会員と区別はあるのか。

〈環境省 仁田委員〉

区別はない。今年からの富山エリアは全員がスタートラインにつけていないので、できるところから集めている。単なる集金目的に見えないように、国立公園が一体的に維持していこうという姿勢を見せている。集まったお金の使途は最終的に掲載しなければならないので、間違った段取りにならないように注意していかなければならない。

〈白馬村観光局 吉沢委員〉

市町村単位で行うのか。

〈環境省 仁田委員〉

市町村単位だと配分が難しいので、目線を広げて登山道のあり方を認識しながら議論していかなければならない。

〈吉川 副部長〉

あくまでも登山道維持だけでトイレ等の維持にはお金は使われていないということか。

〈環境省 仁田委員〉

トイレはかなり問題が多い。キャンプ場のトイレの改修には高額な費用がかかる。

別の山小屋からも作りたい声ももらっているが、安易に作ろうとは言えない。

このプログラムはあくまでも登山道の草刈りを中心とした快適利用のために資するものというのが主たる方向性。

〈吉川 副部長〉

議論が尽きないが、時間も限られているので今回はここまでの協議としたい。

#### 4.その他

〈事務局 矢口係長〉

第2回の検討部会は日程調整して連絡する。

#### 5.閉会